

別紙

IOS ミーティング

6月25日 IOS 海洋化学部会議室

参加：クリフ・ロー、ネルソン・シェリー、津田敦、フィリップ・ボイド、フランク・ウィットニー、キース・ジョンソン、ビル・クロフォード、ティム、プラス2名

散布について

5x5 マイル ( 6 4 k m 2 )、溶解は PH 2 程度

ML は 40m 程度か？

ドロークの長さは 5 m、深さは中心が 15m

場所は StnP の近くを予定。

最近 StnP の近くに南西と北東に高気圧性の渦、北西に低気圧性の渦があり、P 付近はその狭間で流れが弱い、この状況は 6 ヶ月以上維持されており、P 付近がもっとも良いと考えられる。ひょっとすると Si の欠乏も考えられるので、プレサーベイで確認。

航海中び IOS のコンタクトパーソンはフランク ( アルゴス、海面高データなど )

ブイについて

フラッシャーはすべてのドリフターにつける。詳細な計画は後に B.クロフォードから送付予定。漂流物の種類は

トラップ：ドロークはなし。GPS ブイ付き

アルゴス：ドローク付き、フラッシャー付き

中心ブイ：GPS 付き、ドローク付き

FRR のキャストは昼のみ。

基本的に夜のサンプリングはないが動物プランクトンは何回かは行う予定。

2 船がパッチに同席しないのは安全のため。

少なくとも 2 つのアルゴスブイをパッチいれる。

表面だけでも毎日採る ( 植物プランクトン )

Gas サンプリング時に逃げるかどうかは不明。

船内時間は太平洋西岸時間を使用。データログは UTC を使用のこと。

日本サイドはトラップに蛍光光度計つける、と思ったが。確認すること ( 野尻さん、どうなっていましたか？ )。カナダは必要性は痛感するが用具なし。

26日

モーリス、Tully の C/O、カロライナ、ネルソン、フィリップ、フランク

タリーが去る時に、アルゴスを一個おいてってもらう（アウトパッチトラップ用）

Tully のインマルサット：872-331-611-410

E-mail: [tullyj@pac.dfo-mpo.go.ca](mailto:tullyj@pac.dfo-mpo.go.ca)

ELPUMA にはインマルサット C を搭載するがまだ番号が決まっていない。

つながればメールもファックスも使用できる予定。

#### Daily communication

19:00 & 9:00

夜は当日の結果の報告と翌日の予定、朝は当日の行動確認のため。

基本的情報は E-mail で、VHF はブリッジとブリッジ Ch 19

ELPUMA の 3 人の船長のうち 2 人は英語が理解できる。

通訳はカロライナ

#### Intercalibration

DOC はプロファイルかそれとも単独層か？ 採集の仕方は？（吉村に確認）

FRR は昼の OUT のキャストで

OUT のキャリブレーションは 0.5 マイル暗い離れれば安全

試料の交換はゾディアックを基本に考える。

TH234 の仕事を始める前に工藤先生にあいたい(カロライナ)、人の移動も想定する必要あり。

STN P は航路になっているので注意。

感想：27 日から積み込みということもあって、さすがにまとまりがついてきたような気がするが、一番の問題点はリーダーが不在なことと思う。Boyd がきて、まとめにかかって、何とかあったが、不安は残る。特に、Tully が去った後の指揮系統に不安。ElPuma の PI モーリスに至っては、積み込みも参加せずに家族と Pacific Lim にヴァカンスに行く予定。ネルソンが ElPuma に乗船するのが救いか？ 26 日 3 時からは乗船者に対するブリーフィングと簡単なパーティーであったが、来ているのは学生クラスばかり。今回、両船の PI（モーリスとフィリップ）および通訳であるカロライナと顔を合わせ話したことは良かったと思う。開洋丸の参加は非常に強く Acknowledge されていたが、やはり、Tully と Puma の共同作業がまず中心であり、かつ、まだ多くの不安を抱えているため、開洋丸は現場合わせの印象が残った。英語のコミュニケーションは辛い。一人は寂しい。  
以上。